

## 情勢報告

## 東洋町のナス生産者グループが初めて土着天敵活用技術を勉強



勉強会の様子

7月28日、ナス生産者グループを対象に、天敵利用技術に関する勉強会を開催したところ、10名中8名が参加した。

振興センターから、「土着天敵+購入天敵の利用方法」、「他地区での天敵利用成功事例」について説明した。生産者からは、「前作では害虫防除に苦労したので、何とか成功させたい」、「農薬の使い方はどうすればよいか?」、「失敗しないように勉強していく」など、多くの意見が出された。

土着天敵の利用について、多くの優良事例がある当振興センター管内において、東洋地区では、まだまだ途上の段階である。今後、振興センターはJAと連携して現地検討会等を開催し、天敵を活用した害虫防除対策の確立を目指していく。

## 北川村くぶつけ集落営農組合ユズ部会研修会の開催



幼木の仕立て方を見て意見交換している様子。

8月4日に北川村久府付(くぶつけ)集落のゆず農家7名が、安芸市東川区の3か所のゆず幼木園を視察した。発足2年目のくぶつけユズ部会では、共同防除をおこなっているが、新植した苗木の仕立て方に不安を持っているため、振興センターが呼びかけ先進地研修会を開催した。

振興センターは、幼木栽培の注意点や視察先の樹形をモデルに解説した。部会員は視察先農家の灌水施設や徹底した除草管理を見て感心したり、「樹の生長が全く違う」、「樹の形がよくて玉が取りやすい」といった感想を持ち、活発な意見交換の場となった。最後に「3年目までの管理が重要」というアドバイスを受け、皆納得していた。

振興センターではさらに個別指導や栽培勉強会を行い、栽培技術の向上等引き続き支援していく。

## 土着天敵を利用した環境保全型農業の展開



天敵への影響は？

安芸市でIPM技術に取り組む環境保全型農業研究会(4グループ)を対象に、土着天敵を活用した害虫防除について、学習会を開催した。今回は従来の研究会単位ではなく、地域密着型の7地区で7月28日から8月6日に実施したところ、合計で131名の出席があった。振興センターからゴマを使ったタバコカスミカメの増殖・飼育方法や促成ナスにおける土着天敵放飼体系について説明をしたところ、天敵に影響のある農薬や農薬の使い方などの質疑が交わされた。また、今年ほどの農家もゴマを播種しているようで、農家同志で「今年はゴマを播いた。」や「タバコカスミカメも付いちゅう。」といった情報交換する場面が見られ、土着天敵を中心としたIPM技術の広がりが期待できる。

## 奈半利町担い手協、島根県出雲市へ集落営農といちじくの研修へ



熱心にメモ取る参加者

奈半利町担い手協議会の 11 名が、8 月 23 日～24 日に島根県出雲市の集落営農の先進地「グリーンワーク」と多伎町の「いちじく館」へいちじくコンテナ栽培や加工品の視察研修を行った。

奈半利町は、こうち型集落営農のモデル地区として取組んでおり、先進地の稲作の受委託や組織体制等について、活発に質問がなされ、モデル地区への意気込みが伝わってきた。また、「いちじく館」では、ハウスのコンテナ栽培や加工品について説明を受けたところ、加工品の多さに参加者は驚いていた。

振興センターは、奈半利町がいちじく苗の無料配布を行うなど面積拡大に取り組んでいるので、これまで生産者にいちじくの栽培指導や加工品への情報提供等行ってきたが、さらに力を入れていく。また、集落営農についてもその必要性を担い手協等でPRし推進していく。